

## 2008年度 卒業論文講評

2009年2月 小関 隆志

### 神田侑亮「公共思想と日本のスポーツ文化の関係について」

「公共」や「公共性」は誰でも知っている、ごく一般的な言葉ではありますが、その概念の意味を厳密に考えようとする、多義的で奥深く、意外と難しいことに気づきます。抽象度の高い概念なので、具体的な事象になぞらえて理解しなければなりません、たとえを用いて説明することも、そう簡単ではないでしょう。

神田さんは、「公共思想」と「スポーツ文化」という、一見無関係な2つを結びつけて、関連性を見出しました。結論には「スポーツが公共の一部として存在するということは、スポーツに対する国民の考え方が公共に対するそれと同様なものになるということだ」と述べていますが、公共思想とスポーツ文化の関連に着目したのは優れた着想であると思います。神田さんは、ある授業の中で公共思想とスポーツ文化の関連について話を聞いたことがヒントになったそうですが、その話を聞いて「なるほど」と思い、ピンと来て知的好奇心をそそられたのは、それまでの神田さん自身のスポーツの経験や、その経験に基づく潜在的な疑問や思いと、授業の話が上手くシンクロしたためではないでしょうか。

神田さんは論文の中で、「公共」や「公共性」という難しい概念によく取り組みました。また、単に本から抜き出した知識ではなく、自分の言葉に置き換えて咀嚼し、スポーツの例にひきつけて具体的に考察している点が、とても優れていると感じました。特に、自身関わっているサッカークラブでの経験を踏まえて書かれているので、説得力があります。

「総合型地域スポーツクラブ」の運営実態はどうなっているのか、ヨーロッパのスポーツクラブでは住民がどの程度主体性を発揮して運営しているのかなど、詰めなければならない論点も多々残ってはいますが、難しいテーマに敢えて挑んだ勇気を称えたいと思います。